HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	3. 表
Author(s)	中沢, 祐一; 矢原, 史希
Relation	北海道大学所蔵中里遺跡（置戸町）収集考古資料 = A Catalogue of the Prehistoric Artifacts from the Nakazato Site, Oketo Town, Hokkaido, Japan / 中沢祐一, 矢原史希編集・執筆
Issue Date	2017-09-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/67622
Type	book part
File Information	06ArtifactsNakazato_165-168.pdf, 石器の計測方法

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

表

TABLE

石器の計測方法

剥片・剥片石器（模式図１）

最大長：　その石器を貫く最長の直線軸の距離。

長さ：　打点とそこから最も遠い末端部の点を結ぶ直線距離。ただし、中間部と上部欠損の剥片、剥片石器、および打面部が二次加工によって失われた剥片石器については、最大長を長さとみなす。

幅：　長さに直交する垂直二等分線が剥片・剥片石器の両側縁と接する点の間の距離。

厚さ：　長さと幅の交点と、長さと幅からなる平面上の長さと幅の交点を通る垂線が剥片・剥片石器の側縁と交差する点の間の距離。

石核（模式図２）

最大長：　その石核を貫く最長の直線軸の距離。

長さ：　作業面の中で打面の残る剥離痕のうち、最長の剥離痕の長さとする。この場合の長さは、打点とそこから最も遠い点を直線で結んだ距離。

幅：　長さに直交する垂直二等分線が石核の両側面・両側縁と接する点の間の距離。

厚さ：　長さと幅の交点と、長さと幅からなる平面上の長さと幅の交点を通る垂線が石核側面と交差する点の間の距離。

舟底形の細石刃核（模式図３）

最大長：　その細石刃核を貫く最長の直線軸の距離。

長さ：　打面と作業面が接する点と打面の末端を結んだ直線の距離。

幅：　細石刃剥離作業面の両端と接する、長さと直交する直線の距離。

厚さ：　細石刃剥離作業面の末端と下縁が接する点を通り、長さに対して垂直となる点の間の距離。

礫面の種類

完全な礫については形状から判定した。部分的に礫面が残存する石器については、遺存する礫面状態から推測した。礫面の種類の基準は、Pettijohn(1975)による。

角礫(angular)：平坦な面のみで構成され、稜線が丸みを帯びないもの。

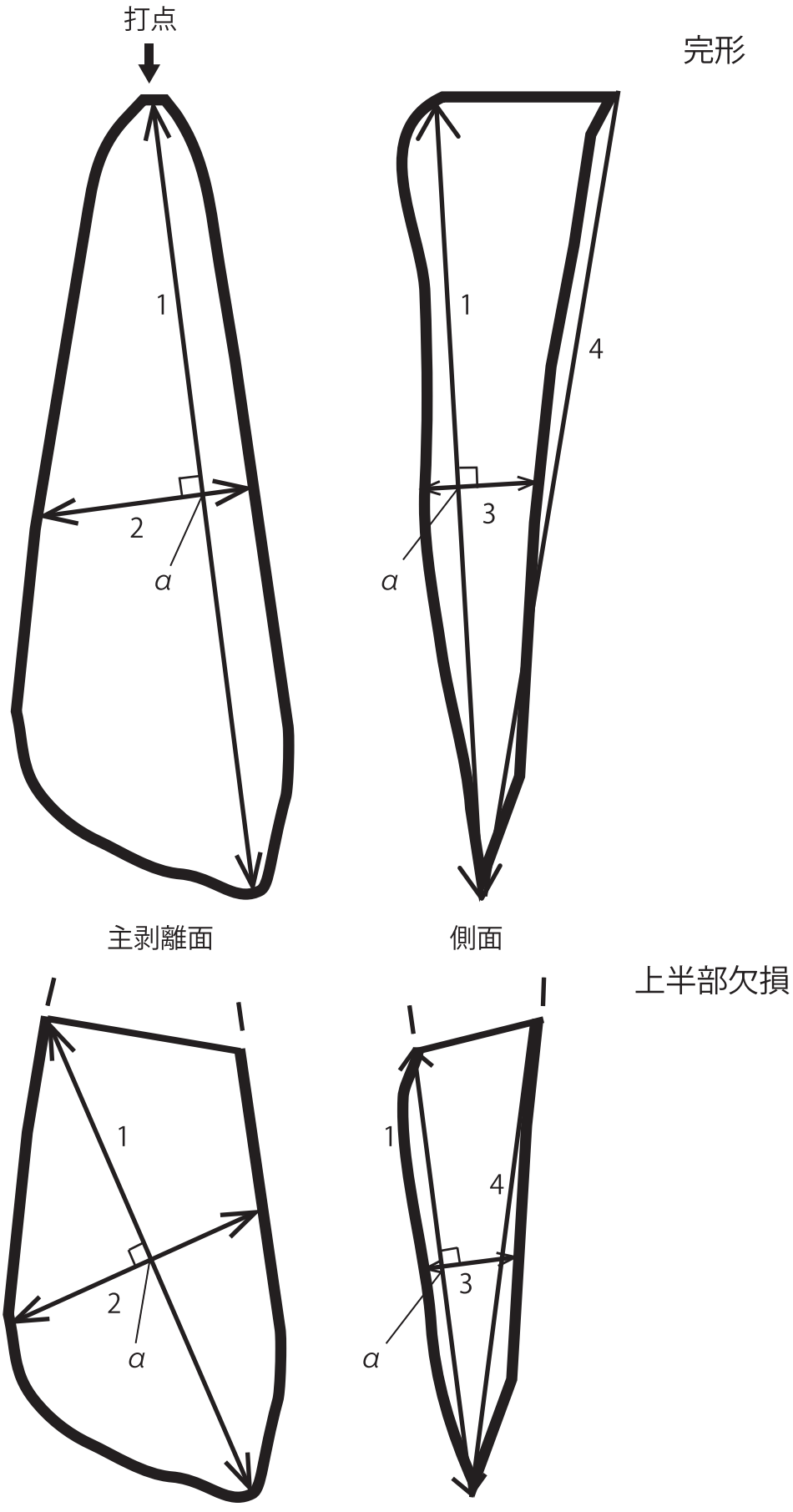
亜角礫(subangular)：平坦な面を主体とし、稜線がやや丸みを帯びたもの。

円礫・亜円礫(rounded, subrounded)：曲面を主体とし、稜線が丸みを帯びたもの。

超円礫(well-rounded)：曲面のみで構成され、稜線が磨滅しているもの。

引用文献

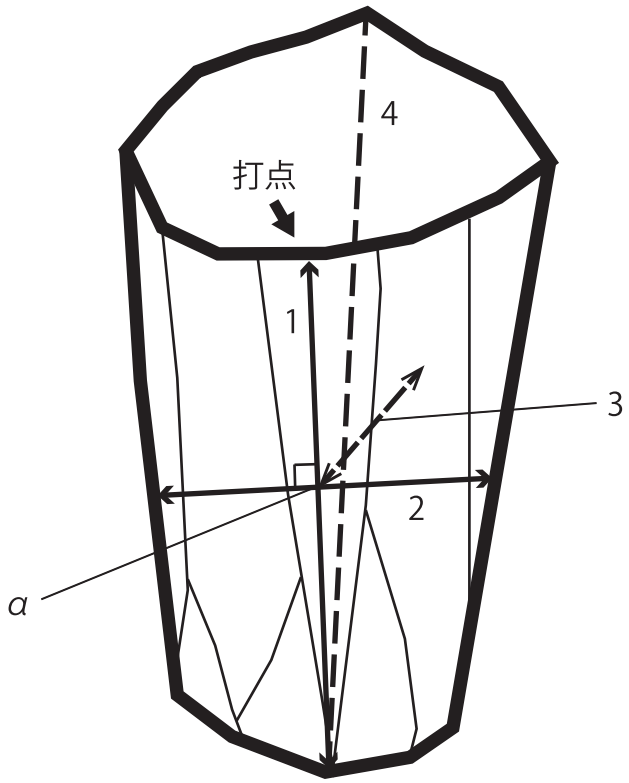
Pettijohn, F.J., 1975. Sedimentary Rocks, Third Edition. Harper & Row, New York.



模式図１　剥片・剥片石器の計測箇所

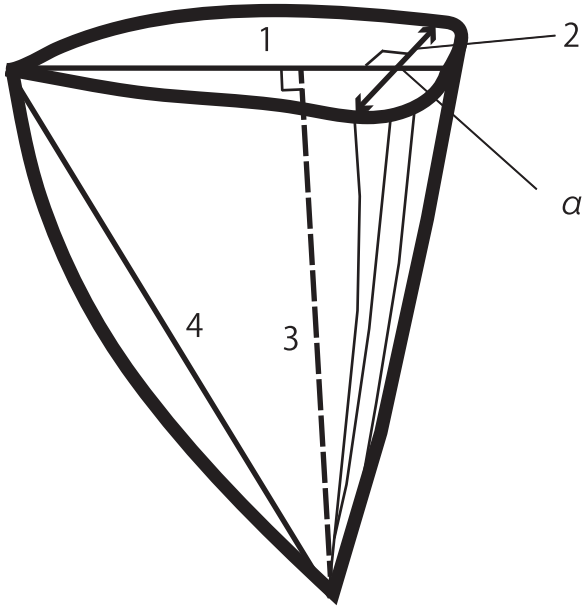
１：長さ　２：幅　３：厚さ　４：最大長　α：長さと幅の交点

上：完形　　下：上半部（打点含む）欠損



模式図２　石核の計測箇所

1：長さ　2：幅　3：厚さ　4：最大長　α：長さと幅の交点



模式図３　細石刃核の計測箇所

1：長さ　2：幅　3：厚さ　4：最大長　α：長さと幅の交点